



パナマ運河（解説：p.39）

# 中学校 社会科のしおり



2010年度  
3学期

1

月号

社会科の先生方  
でご覧ください



帝国書院

## 表紙写真解説

## パナマ運河

(写真 帝国書院 2010年9月撮影)

1513年にスペイン人バルボアがパナマ地峡を横断して以来、この地峡に運河をつくる夢が広まった。1855年、米国の民間会社がパナマ運河鉄道を敷設した。1880年、スエズ運河を建設したレセプスがパナマ運河の工事に着手したが、スエズ運河と同じ水平式を採用したため難工事が続き、さらに疫病の流行や資金難により挫折した。

1903年にコロンビアから独立し、パナマ共和国が誕生した。国防上の重要性により運河に関心があった米国はすぐに交渉を始め、パナマ運河地帯の永久支配権を認めさせた。米国は閘門式を採用、巨額の投資と10年の時間をかけて1914年に運河を完成させた。その後、米国の支配に対する不満が高まり、1979年にパナマ運河の中立条約が結ばれ、1999年12月31日に完全にパナマに返還された。

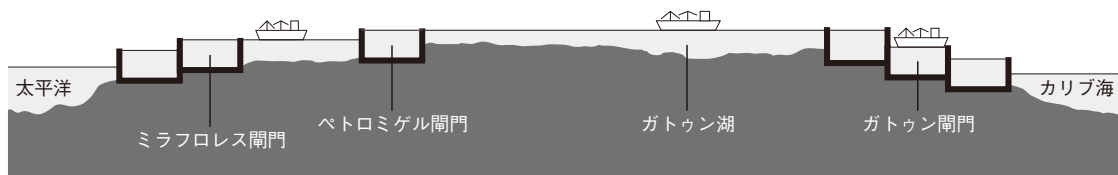
返還後、通航料の値上げ・通航量の増大によ

り、パナマ政府への納付額は着実に増えた。通航料は現金決済のため世界中の銀行が進出し、首都パナマシティは中米一の金融都市に成長している。

パナマ運河では年間約2億tの貨物が約1万4700隻の船舶で輸送されている(2009年)。運河を経由することによって、南米大陸南端を回るより約5000km(約6日間の航海)を短縮できる。

パナマ運河は、下図のように約80kmの航路でカリブ海と太平洋をつないでいる。水がエレベータの役目をもつ閘門が3か所に設置され、閘門の両端の水門を閉めて水位を上げると船は上っていく。写真はミラフロレス閘門で、左手奥は太平洋。大きな船舶の閘門通過の際には、水路の両側からワイヤーで電気機関車と船舶をつなぎ、機関車は船が壁にぶつからないようにしながら牽引している。

パナマ運河を航行できる最大船舶幅をパナマックス(32.3m、最小水路幅は33.5m)とよび、それよりも大きな船の場合はパナマ運河鉄道で積荷を輸送する場合もある。同鉄道は世界最短の大陸横断鉄道ともいえる。



中学校社会科のしおり 2010年度3学期1月号 No. 20

2011年1月17日発行



発行所 株式会社 帝国書院  
 東京都千代田区神田神保町3-29 (〒101-0051)  
 発行人 斎藤正義  
 電話 03-3262-0831

©帝国書院 2011年

<http://www.teikokushoin.co.jp/>